

新しい「いわて男女共同参画プラン」に対するアンケート結果

1 アンケート実施期間 : 令和2年3月16日(月)～4月27日(月)

2 アンケート依頼先 : 各市町村(33)、関係団体(34)

岩手労働局、盛岡地方法務局、岩手県教育委員会、特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会、JA岩手県女性組織協議会、岩手県漁協女性部連絡協議会、岩手県商工会女性部連合会、一般社団法人岩手県母子寡婦福祉連合会、岩手県生活研究グループ連絡協議会、公益社団法人岩手県看護協会、日本労働組合総連合会岩手県連合会、岩手県更生保護女性連盟会、岩手県交通安全母の会連合会、いわて男女共同参画サポーターの会、岩手県人権擁護委員連合会、岩手県農業農村指導士協会、一般社団法人盛岡青年会議所、岩手県商工会議所連合会、岩手県中小企業団体中央会、岩手県商工会連合会、一般社団法人岩手経済同友会、一般社団法人岩手県経営者協会、岩手県中小企業家同友会、一般社団法人岩手県銀行協会、岩手県信用金庫協会、岩手県農業協同組合中央会、岩手県漁業協同組合連合会、岩手県農業会議、岩手県森林組合連合会、一般社団法人岩手県建設業団体連合会、岩手県消防長会、認定NPO法人いわて子育てネット、特定非営利活動法人参画プランニング・いわて、ジョブカフェいわて

3 アンケートの設問項目

(問1)

概ね10年前と比較して、男女共同参画や女性の活躍が進んだと思われる事項を記載してください。

(問2)

本県の男女共同参画の推進や女性の活躍支援において、課題だと思われることや取組が遅れていると考えることについて記載してください。

(問3)

男女共同参画や女性活躍の推進に向けて、県の施策(県男女共同参画センター事業も含む)に期待することを記載してください。

(問4)

地域において様々な活動(防災、まちづくり、自治会活動など)が男女共同参画視点で行われるために、改善すべきと思われることがありましたら記載してください。

(問5)

その他、男女共同参画全般について御意見がありましたらご記載ください。

4 アンケート結果（主な意見）

大項目	中項目	問 1 概ね10年前と比較して男女共同参画や女性活躍が進んだと思われる事項	問 2 本県の男女共同参画の推進や女性の活躍支援において課題と思われる事項
進Ⅰ 東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進	2 防災における男女共同参画の推進	<p>《のべ件数18件（団体18）》</p> <p>【男女の違いに配慮した防災対策】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・当たり前の日常が崩れた時、避難生活運営に女性の視点が不可欠、位置付けなければ機能しないことが分かった。 <p>※以下、各消防本部からの意見</p> <p>【女性消防職員への理解促進】（3件）</p> <ul style="list-style-type: none">・住民が消防署に女性消防職員が勤務していることを当たり前に思うようになった。・中学生対象の職場体験学習の講師として女性職員を派遣し理解を深めた。・消防職員を自分の職業として目指す女性が多くなった。 <p>【女性消防職員の増加】（13件）</p> <ul style="list-style-type: none">・女性消防職員が以前はいなかったが増加した。・総務省消防庁の取組で、令和8年度までに女性消防吏員の比率5%まで引き上げる目標値を達成した。・消防職員として採用された女性が働きながら結婚・出産を経て職場に復帰できるのが当たり前になった。 <p>【女性消防職員の活躍】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・女性消防職員は男性消防職員と同等の業務を行っている。また、女性消防職員は救急救命士の資格を有する職員が多く、救急の現場でも活躍をしている。	

大項目	中項目	問 1 概ね10年前と比較して男女共同参画や女性活躍が進んだと思われる事項	問 2 本県の男女共同参画の推進や女性の活躍支援において課題と思われる事項
Ⅱ 女性の活躍	拡1 大政 策・ 方針 決定 過程 への 女性 の参 画	<p>《のべ件数20件（市町村5、団体15）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の管理職が増えた。 ・自治体職員の女性管理職の増加 ・審議会等の委員に女性の登用が進んだ。 ・女性農業委員の増加。 ・J A女性理事の増加。 ・地元女性議員が誕生したことにより、政治・社会への参加が身近になった。 ・女性が責任ある職についたり、高収入を得ることに違和感がなくなってきた。 ・会社は男性が継ぐものという固定観念があったが、今は女性もあたりまえになってきている。 	<p>《のべ件数14件（市町村5、団体9）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職等への女性登用の遅れ、意思決定機関における女性の割合の伸び悩み ・県職員や教職員の管理職への女性登用が目標値よりも遅れている。 ・県議会・市町村議会ともに、女性議員の比率が低い。 ・女性リーダー及び管理職の育成。 ・女性の管理職登用に対する環境整備を進める一方で、管理職を望まない女性の意思を尊重することも重要である。女性の活躍支援と個人のキャリア形成に対する思いのギャップを調整しながら取り組みを推進していくことが課題と考える。
	活2 躍女 性の 推 進 の 職 業 生 活 に お け る		<p>《のべ件数6件（市町村2、団体4）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般事業主行動計画を策定している企業が少ないことが課題。 ・中小企業10人規模以上ではある程度進んできているが、10人未満になると意識されていないように思う。県内の企業は大多数が10人未満の企業なので、この規模の企業でいかに意識されてくるかが課題。 ・男女が共に活躍できる事業にシフトチェンジする時期に来ていると考える。
	境3 づワ ーク ・リ フ・ ライ フ・ バラ ンス の推 進の ため の環 境	<p>《のべ件数12件（市町村7、団体5）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や様々な自治体においてイクボス宣言が行われ、働き方改革やワークライフ・バランスを支援、推進する風土が徐々に出来つつある。 ・男性の育児休暇の取得が増えている。 ・女性が育児休暇を取得しやすい雰囲気になってきている。 	<p>《のべ件数16件（市町村7、団体9）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の男性の育休取得率は、全国でワースト2位となっており、イクボス宣言をしたのにも関わらず、実態が伴っていないように感じる。 ・男性の育児休暇取得や職場の理解が進んでいない。 ・育児期における就業継続の困難を解消し、キャリア形成における男女差の解消につなげていけるとよい。 ・女性について、未だに両立を図る労働環境が整っておらず、非正規やパートタイムの割合が多いので、仕事と子育ての両立支援等を行っていく必要があると考える。 ・ライフスタイルの多様化に対応した制度や枠組みの整備が遅れていることから、仕事と生活の調和が十分に進んでいない。 ・「学童クラブ」「自宅療養・介護」等の女性労働者を取り巻く環境の具体的改善が必要。
	雇会4 用・男 環待女 境遇均 のの等 整確な 備雇 保雇 など機	<p>《のべ件数1件（団体1）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働組合において、女性の組合員比率が増加した。非正規労働者に占める女性の比率が高いことに加え、非正規労働者も組合へ組織したことが大きいと考えられる。 	<p>《のべ件数2件（市町村1、団体1）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型ウィルス感染症対策でも課題となった「非正規労働者」「フリーランス」

大項目	中項目	問 1 概ね10年前と比較して男女共同参画や女性活躍が進んだと思われる事項	問 2 本県の男女共同参画の推進や女性の活躍支援において課題と思われる事項
	け農 る林 男水 女産 業共 同・ 参画 の自 営業 にお	《のべ件数1件（団体1）》 ・県の幸せつくる農業女性などの取り組みによって、若い農業女性経営者の意欲を高めた。	《のべ件数1件（団体1）》 ・女性農業者は重要な担い手であることから、女性農業者の活躍に焦点をあてたり、家族経営協定の締結や農業委員・農業団体役員の参画を進めているが、その割合はまだ少ない。農業経営でも、農村社会でも、旧来の習慣が根強く残っており、男女が対等のパートナーとして相互に認識されている状況には至っていない。女性農業者からは、女性だけの活動には限界があり、地域の中心となっている男性の意識転換や男女共同での地域活動の取組などの機会を多くすることが必要とされている。
Ⅲ 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備	1 男女共同参画を推進する教育・学習の充実	《のべ件数17件（市町村14、団体3）》 【学校教育】（7件） ・学校教育において男女混合名簿を使用している割合が上昇した。 ・SDG s の学習によりジェンダーの認知度が向上。 ・子どもや若い世代では意識が改善されてきているように感じている。 【普及・啓発事業】（6件） ・「男女共同参画」、「ワーク・ライフ・バランス」など言葉の定着とその内容の普及。 ・男女共同参画について関連イベント（普及啓発活動）の増加 【男女共同参画サポーター】（4件） ・男女共同参画サポーターの増加による男女共同参画やDV、LGBTへの認知度・理解度	《のべ件数5件（市町村2、団体3）》 【意識改革・制度慣行】 ・男女共同参画に関する行事への男性参加者が少ない。 ・男性への固定的性別役割分担意識の意識改革等のセミナー、または学習支援の充実が必要と感じる。（すでに開催しているのであれば、住民の認知度は低いと感じる。） ・沢山のの人に正しい理解と関心を持ってもらうためには楽しく分かりやすい取り組みやイベントも必要と思う。
	見2 直男 し女 共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の	《のべ件数7件（市町村6、団体1）》 【意識改革・制度慣行】（4件） ・固定的性別役割分担意識が減少している。 ・情報化社会や啓発により男女共同参画という言葉の認知度は向上したように感じられるが、制度や慣習の変化には至っていない。 【LGBT】（3件） ・LGBTの理解等が進んできており、公表している方も増えている。	《のべ件数13件（市町村8、団体5）》 【意識改革・制度慣行】（13件） ・性別役割分業に対して否定的な意識はあるものの現状は変わっていない。 ・昔からの価値観が根強く残っている地域も多く、啓発だけでは浸透にも限界がある。 ・まだまだ世の中は「男性社会」が根強い。男性も女性もその意識が強く残っている。その意識が変わらないかぎり、難しいと思い。特に農村社会はその傾向が強いのでは。但し若い世代は、少しずつ変化してると思う。 ・まだまだ女性が家庭を守り、育児をするのが当然であるといった風潮が根強い。 ・意識の改革が一番である。特に男性というよりは、女性側の意識が変化していないように思われる。具体的例としては、管理職や役員への起用を拒否する女性職員がいる。責任が重くなることに不安があるようだ。

大項目	中項目	問 1 概ね10年前と比較して男女共同参画や女性活躍が進んだと思われる事項	問 2 本県の男女共同参画の推進や女性の活躍支援において課題と思われる事項
	3 家庭における男女共同参画の推進	《のべ件数9件（市町村5、団体4）》 ・男性も育児や学校行事に積極的に参加している。 ・特に若い年代において男性の子育てへの理解が進み、育児休暇や休日の家庭での子育てをする男性が増えた。	《のべ件数6件（市町村2、団体4）》 ・依然として家事・育児について女性の負担が多いと感じる。 ・高齢化が進む地方においては依然として家事全般、介護は女性の役割という考えが強く、高齢者世帯と若者世帯の格差が顕著になっている。地域全体で高齢者や子供を支える仕組みを考えるなど女性の負担軽減についての取り組みが住みよいまちづくりにつながる。 ・県が2018年度調査から見えたひとり親世帯の状況を検証し、適切な支援が必要。 ・子育ての支援。これから女性の社会進出がますます進んだとき、男性も子育てや家事に取り組む時間を作らなければならない。男性が家庭に向き合えるような制度と意識改革が必要。
	画る4の男地推女域進進共に同お参け	《のべ件数1件（市町村1）》 ・地域振興のため、種々の小委員会を作り、取組を進めているが、女性も沢山参加している。	《のべ件数1件（市町村1）》 ・地域行事の準備や計画に女性の参加が男性に比べて少ない。
の暴IV 健力 康の女 支根性 援絶に と対 女す 性る	ら1 ゆ女 る性 暴に 力対 のす 根る 絶あ	《のべ件数5件（市町村2、団体3）》 ・DVに対する認識が広がっているととらえている。 ・はまなすサポートラインの設置 ・ハラスメント防止宣言を行い、全職員に周知した。 ・DV相談が増えてきているのは、DV相談の周知が広がってきているからだと思う。	《のべ件数2件（市町村1、団体1）》 ・セクハラ、モラハラなどのハラスメントや性別を理由にした差別・偏見の防止 ・相談を受けた後の女性の生活支援が欲しい。
第3章 計画の推進	1 それぞれの役割と連携		《のべ件数4件（市町村2、団体2）》 ・県や市町村の計画は、指標に縛られがちだが、内容の充実がそもそも課題。県においては、市町村の牽引役になっていただきたい。 ・民間などの協力を得ながら進めてると思うが、依然として県が中心となっている現状から、もっと民間の幅広い協力を得る必要があると思う。 ・子育て支援策と男女共同参画に関する施策の連絡が密ではない。

問3 男女共同参画や女性活躍の推進に向けて、県の施策（男女共同参画センター事業も含む）に期待すること	
I 復興と防災	<p>《のべ件数3件（市町村0、団体3）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での会合等において女性が参加する機会がまだ少ない。災害発生時などの女性の果たす役割は大きく、行政が防災分野や自治会などの女性の参画について積極的に啓発する必要がある。 ・女性消防吏員が不足しているため、消防職における女性活躍推進に関する施策があれば良いと感じる。 ・岩手県で作成した女性消防職員活躍推進ポスターの効果は、少なからずあったものと推察される。
II 女性の活躍	<p>《のべ件数15件（市町村3、団体12）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策や方針決定過程における女性の参画 ・県職員の積極的な女性の人材登用を継続的に行うこと、県関係の委員に関わる男女比の配慮も同様。 ・女性リーダーの資質向上の機会提供、幹部研修会の実施（3件） ・多様な職務経験の付与、女性キャリア形成支援 ・女性の意識向上 ・女性が自分に自信が持てるような施策を ・女性の活躍は子育て支援が不可欠。いわば車の両輪なので子育て支援のいっそうの推進。 ・妊娠中の不安払拭と円滑な職場復帰のための取組 ・女性活用が進んでいる企業をもっと県民に知らせてほしい。何事も見える形にならないと分かりにくい。 ・企業等に対する意識啓発（2件） ・全般的な対応が先行しているが、専門職種にはもっと個別の職種に適合した評価、多様性のある考え方が必要ではないか。 ・市町村との事業連携や講座・イベント情報などの集約と発信などのプラットフォーム機能がほしい。
III 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備	<p>《のべ件数33件（市町村21、団体12）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修動画、オンライン等での受講しやすい環境（4件） ・出前講座等、各種講座の継続、充実（8件） ・女性団体のバックアップが必要。 ・行政職員向けの研修の開催 ・市町村計画策定支援 ・市町村と共同して行うセミナーや事業 ・地域課題の解決に向けた活動が男女共同参画の視点で行われるよう情報提供、ネットワーク構築等 ・サポーター養成講座認定者が地域を超えて意見交換できる場 ・サポーター養成講座認定者に地域で男女共同参画を進める核となって働いてもらう方法。非常にもったい。 ・一層の県民への周知（6件） ・多様性を持った発信 ・年齢や階層にそった研修、普及啓発の充実（2件） ・市町村、関係団体、企業等とのさらなる連携による県民への意識啓発 ・意識改革に関する取組みに具体性がない。「環境の整備」というが「環境」とは何か。単に「意識的なもの」なのか、もう少し具体策が欲しい。 ・女性でも特に弱い世帯、具体的には高齢単身・ひとり親世帯の女性支援を支えることが「安心して暮らせる岩手県」実現において重要だと考える。 ・LGBTへの理解促進（2件）
IV 女性に対する暴力の根絶	<p>《のべ件数2件（市町村1、団体1）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性相談、男性のDV被害者支援の推進 ・制度が活用できる（できやすい）ものであってほしい
第3章 計画の推進	<p>《のべ件数6件（市町村3、団体3）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、県が模範を示すような取り組みを進めてほしい。 ・企業や地域などの先進事例を積極的に発信することや、市町村と連動し理解促進の機会を創出することなど。 ・男女共同参画と一口に言っても間口が広く、様々な分野に関連してくる。自治体においても、担当課以外は認識が薄い。広く自治体職員へ意識啓発することも必要と思われる。 ・ふるさと振興戦略に沿った事業推進 ・地方独自の施策を検討し、導入することも必要ではないか ・県の取り組み等は充分評価できるものとする。

問 4 地域において様々な活動（防災、まちづくり、自治体活動など）が男女共同参画視点で行われるために、改善すべきと思われること	
自治会活動	<p>《のべ件数11件（市町村5、団体6）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会や公民館の会議ではほとんど男性の参加で女性の意見が反映されない。 ・自治会などにおける、根強く残る性別による役割分担意識（会長は男性、庶務は女性など）（4件） ・女性がリーダーとして地域おこしや自治体活動などに取り組んでいる事例を取り上げ県内に広く周知する。 ・自治会活動は、近年女性委員も増え女性の活躍する場や機会が多くなってきているように感じる。 ・見た目には地域の中で女性も積極的に参加したり、発言したりしているものの、まだまだ男性社会の発言が多いと感じる。 ・もっと女性に役員になって欲しい。 ・市民にとって最も身近な町内会活動の担い手への研修を行ってほしい。普段から防災などに女性の視点が入っていればいざというときに役立つと思う。 ・村の自治会代表者は全て男性であり、地域でワークショップ等を開催しても女性の参加者は少数。
参画しやすい環境づくり	<p>《のべ件数12件（市町村7、団体5 ）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性が出席しやすい環境づくりや啓発活動が必要。（3件） ・多様な世代、多様な視点の意見を反映させるため、誰もが参加しやすい地域活動のありかた検討、周知啓発の企画（4件） ・女性が防災、町づくり、自治会活動に積極的に参加しても違和感のない雰囲気を作るためには、半強制的な男女比の設定がとりあえず効果的ではないか。 ・地域活動におけるリーダーの負担が課題となっていることから、リーダーを支えられる地域づくりも同時に考えていく必要がある。 ・地域活動が男女共同参画視点で行われるためには、家庭内での男女共同参画視点や家庭の協力視点が重要になると思う。 ・PTA活動と自治会活動や街づくり活動を結びつけることも効果的だと思われる。 ・若者の地域参加を進めたいが両立を図ることが難しい世代が、地域活動に積極的になれない現状もあると思う。
防災分野	<p>《のべ件数 3 件（市町村2、団体1 ）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性防災士を増やす取り組みや多様な視点を取り入れた防災力向上セミナー等を開催し女性防災リーダーの育成に努める必要があると感じる。 ・災害避難所では女性の力が必要不可欠である。防災会議などに意識的に女性委員を入れ、広く意見を集めるなどの努力が必要と考える。 ・依然として地域活動では男性中心の活動や女性のための活動になっているのが実情であり、防災の観点からすると、自主防災組織で女性リーダーを養成するなど、地域において男女がそれぞれの立場で、意見を出し合い、お互いに尊重し合える環境づくりが必要と考える。
人材育成等	<p>《のべ件数 5 件（市町村3、団体2）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性リーダーの育成 ・認定サポーターの独自（団体運営含む）活動への支援や助言など。（認定後のフォローの充実） ・日頃から男女共同参画の視点を持ち気づくことができる仕組みづくり。 ・参画すべき女性の登用の比率や目標を決めて、活動への積極的な女性の参画を促す。 ・前向きに社会参画する意識を持たせる支援
意識改革	<p>《のべ件数 7 件（市町村0、団体7）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動において性別役割分業が深く根付いている。（2件） ・男女のことだけではなく、若老も一つの区分。それぞれが認め合えるようにしていく必要がある。 ・女性ももっと自信をもって参画できるように。 ・女性の参画意識を変えること。 ・地域の課題解決のための施策や活動の中で、男女共同参画の重要性が十分に意識されていないため、地域における男女共同参画推進の基盤づくりが不十分となっているのではないか。 ・時間設定の検討や意識改善が必要「女性の意識」「男性の意識」「家族の意識」「地域の意識」の変革
その他	<p>《のべ件数 3 件（市町村0、団体3）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりは自分たちの手で」というトータル施策 ・男女という視点からだけではなく若い世代の参画をまずは進めていくことが第一段階では。若い世代が参加するようになればおのずと男女という区分けなく参加してくると思う。 ・女性の活躍に焦点を当てることは重要ではあるが、加えて男女共に活動することを促す施策や、男女共同の取組がより成果を上げている事例のPR、様々な分野の団体が一体となった運動の展開、さらには中高生など教育現場での意識付けなど、県民全体の気運の盛り上げの強化が必要と考える。